

# 雪嶺集

〈宮坂静生鑑〉

永遠

小林貴子

夏のれん月の満ち欠け刻々と  
ふいに永遠に会ふそれが少年の夏  
蛞蝓の長い話を聞いてやり  
若冲の色また色や唐辛子  
羅や歩みは水尾を引く如く  
蟬ほどに軽くあれかし我が骸  
百合揺るる晩禱刻の軽井沢  
避暑名残中村真一郎を読む  
新涼の星にゐて星仰ぎをり  
ハムを巻かれてゐるメロンは幸せか